

新潟県

教育月報 12 月号

第 882 号

令和 5 年 12 月 1 日発行

編集人、発行人

新潟県教育委員会

＜今月号の記事＞

	対象校種
1：教育ニュースライン	P 1 全種
2：令和 6 年度高等学校等募集学級計画について	P 2-5 高校
3：第 5 回科学の甲子園ジュニア新潟県大会の報告	P 6 中
4：「拓け未来の新潟 第 17 回教育フォーラム」の開催について	P 7-8 全種
5：インフォメーション	P 9-10 全種

教育ニュースライン

県教育に関する最新ニュースをお知らせします。

11月1日に「新潟県教育の日」記念イベントを開催しました

新潟県教育委員会では、教育の重要性を考えるきっかけとしていただくため、11月1日の「教育の日」に記念イベントを新潟ユニゾンプラザにて開催しました。

記念イベントは、「探究的な学び」をメインテーマとした 3 部構成で実施し、探究的な学びの重要性や今後求められる人材についてお伝えしました。

また、本イベントは会場・オンラインのハイブリット開催で行い、会場では約 200 名、オンラインでは約 130 名の方に参加していただきました。

【第 1 部 基調講演】

○講師：(一社) STEAM JAPAN 代表理事

井上 祐巳梨 氏

○演題：社会につながる学び

～今求められる探究的・創造的な学びとは～

変化の激しい時代における必要な学び、及び求められる人物像（自ら課題を発見・設定し、ゼロから 1 を生み出す創造性を持つ人物）について説明していただきました。

【第 2 部 成果発表会】

○新潟市立五十嵐小学校

「福祉」をテーマに、地域とのつながり、多世代とのつながりなどの共通課題に対して、5 年生全員で考え、取り組んだことを発表。

○胎内市立中条中学校

3 年生による「まちづくり会社中条中学校社」の取組（三八市の賑わい創出等）を発表。

○新潟県立津南中等教育学校

放置杉の利活用を通じた 4 代目の「森の三方よし」の活動として、花粉症で苦しむ人を減らすことを目指した取組を発表。

【第 3 部 パネルディスカッション】

○パネリスト：

(一社) STEAM JAPAN 代表理事 井上 祐巳梨 氏

立命館小学校 教諭 正頭 英和 氏

木山産業(株)執行役員 CIN0 石川 翔太 氏

○議題：学びが変わると社会も変わる！「探究的な学び」が未来を創る

「探究的な学び」の認識・課題を踏まえ、実践する上でのヒント等をお話いただきました。

【イベントの詳細はこちらから】 → <https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/kinennibennto.html>



令和 6 年度高等学校等募集学級計画について

高等学校教育課

令和 6 年度の募集学級について

1 令和 6 年度県立高等学校等募集学級計画策定の考え方

令和 6 年度県立高等学校等募集学級計画は、本年 7 月に策定した「令和 6 年度～令和 8 年度県立高校等再編整備計画」を基に、中学校卒業生数の変動や令和 5 年度の志願状況、入学状況、新潟県の課題などを精査し、策定しました。

また、計画策定にあたっての基本的な考え方は以下のとおりです。

「県立高校の将来構想」に基づき、魅力と活力ある学校づくりを推進する

- (1) 「県立高校の将来構想」の「3つの基本方針」を踏まえた魅力ある学校づくりを推進する。
- (2) 県内を 6 つのエリアに分け、そのエリアごとの中学校卒業生数及び他エリアとの生徒の流入状況等を勘案しながら、募集学級数を検討する。
- (3) それぞれのエリアの状況を斟酌しながら、全県の視野に立って、学校規模の適正化を図る。

[県立高校の将来構想の 3 つの基本方針]

- ◇ 様々な分野で活躍できるグローバル人材を育成する教育の推進
- ◇ 県外の生徒も学びたい魅力ある学校づくりの推進
- ◇ 地域との連携を深化させた人づくりの推進

2 令和 6 年度募集学級計画の概要

令和 6 年度に募集学級を変更する県立高等学校等は、表 1 のとおりです。

県立高等学校、県立中等教育学校の募集学級と募集定員の一覧表は、5 ページに掲載しました。

また、再編整備の具体的な内容は、次のとおりです。

表 1 令和 6 年度募集学級を変更する県立高等学校等

全日制課程		
エリア	学校名	計画内容
①新発田・村上	村上高等学校	普通 通 -1
	新発田南高等学校	普通 通 -1
②新潟	新津南高等学校	普通 通 -1
	新潟東高等学校	普通 通 -1
	新潟北高等学校	普通 通 -1
	新潟工業高等学校	工業 通 -1
	巻総合高等学校	総合 通 +1
	三条東高等学校	普通 通 -1
③長岡・柏崎	見附高等学校	普通 通 -1
	柏崎常盤高等学校	普通 通 +1
④魚沼	十日町総合高等学校	総合 通 -1
⑤上越	高田北城高等学校	普通 通 +1
	久比岐高等学校	普通 通 募集停止-1
	新井高等学校	総合 通 +1
	直江津中等教育学校	後期課程 -1
⑥佐渡	佐渡総合高等学校	総合 通 +1

- ・定時制課程の学級増減はありません。
- ・中等教育学校の前期課程の学級増減はありません。
- ・直江津中等教育学校後期課程は、令和 3 年度に前期課程を 1 学級減としたことによるものです。

○ 新潟工業高等学校

学科改編により、これまでに新潟工業高校が培ってきた工業教育の伝統の上に、デジタル技術活用による新たな学びを融合することにより、変化が激しく、先を見通すことが難しい社会の中にあっても、より良い未来を創造していく工業人材の育成を進めていくことをめざします。

この学科改編により、次に挙げる 5 つの新たな小学科を設置します。募集にあたっては、小学科単位での募集は行わず「ミライ創造工学科」としてくり募集を行います。

全学科共通で「DX人材育成プログラム」を実施し、デジタル活用技術を実践的に学ぶ学習機会を設ける予定としています。

学科名	
1 年時	2～3 年時
ミライ創造工学	I T 工学
	メカトロクス工学
	都市工学
	建築工学
	環境化学

募集学級等の推移

1 中学校卒業生数と高等学校等進学率の推移

(1) 中学校卒業生数の推移

平成元年 3 月に中学校を卒業した生徒の数は 39,129 人でしたが、現在は半数以下にまで減少しております。さらに、令和 6 年 3 月の中学校卒業生数は、今春より 116 人減少し、18,314 人の見込みです。(表 2)

その後も減少傾向は続き、現在の小学校 1 年生が高校に進学する令和 14 年 3 月には、今春の中学校卒業生数に比べ 3,001 人少ない 15,429 人となる見込みです。この減少数は、1 学級あたりの募集定員の 40 人で計算すると 75 学級分に相当することになります。

表 2 各年春の中学校卒業生数

卒業年	卒業生数	増減(R5を基準)
平成元年 3 月	39,129	20,699
令和 5 年 3 月(今春)	18,430	±0
令和 6 年 3 月(来春)	18,314	▲ 116
令和 7 年 3 月	17,794	▲ 636
令和 8 年 3 月	18,051	▲ 379
令和 14 年 3 月	15,429	▲ 3,001

※令和 6 年以降は推計値

※中等教育学校前期課程の修了者を含む

(2) 高等学校等進学率の推移

高等学校等進学率の全県の推移(表 3)を見ると、平成 30 年度以降、99.6%となっており、中学校を卒業した生徒のほとんどが高等学校に入学していることとなります。なお、本県の高等学校等進学率は全国に比べ高い状況であり、平成 28 年度以降、全国で 1 位を維持しています。

このことは、募集学級計画が本県生徒の進路希望やそれぞれのエリアの状況を踏まえて適切に行われていることが一つの要因であると考えています。

表 3 エリア別高等学校等進学率(%)

年度 エリア	R元(H31)	R2	R3	R4	R5
①新発田・村上	99.8	99.7	99.7	99.5	99.4
②新 潟	99.7	99.6	99.6	99.7	99.6
③長岡・柏崎	99.6	99.7	99.7	99.6	99.7
④魚 沼	99.6	99.4	99.5	99.4	99.3
⑤上 越	99.6	99.5	99.6	99.7	99.9
⑥佐 渡	98.5	98.7	98.3	99.8	98.9
全 県	99.6	99.6	99.6	99.6	99.6
全 国	98.8	98.8	98.9	98.8	未定※
全国順位	1	1	1	1	

※中等教育学校後期課程への進級を含む

※令和 5 年度の全国平均及び新潟県の全国順位は、12 月下旬に判明する予定です。

2 普通科、専門学科等の募集定員比率

県立高等学校の普通科、その他の専門学科(理数、専門系、国際教養、音楽等)、総合学科、専門学科(農業、工業、商業、水産、家庭)の募集定員比率は、表 4 のとおりです。

令和 6 年度高等学校等募集学級計画では、5 学級増、中等教育学校後期課程を含む 10 学級減、募集停止による 1 学級減の合計 6 学級減とし、募集定員は 240 人減となります。

前年度と定員比率を比較すると、普通科が 1.6 ポイント減に対し、その他の専門学科で 0.7 ポイント、総合学科で 0.9 ポイント増となりました。

表 4 県立全日制高校の学科別募集定員比率(%)

年度 学科	H元	H10	H20	H30	R3	R4	R5	R6
普通科	63.5	62.4	64.5	60.0	59.8	59.7	60.4	59.5
その他の 専門学科	-	3.0	4.3	4.1	4.2	4.1	3.9	4.0
総合学科	-	3.7	10.1	11.6	11.5	11.6	11.0	11.9
専門学科	36.5	30.9	21.1	24.3	24.5	24.6	24.7	24.7

※その他の専門学科…理数、専門系、国際教養、音楽等

※専門学科…農業、工業、商業、水産、家庭

3 全日制学科別入学者数と充足率の推移

公立全日制高等学校等における学科別入学者数と充足率は、表 5 のとおりです。

表 5 公立全日制学科別入学者数及び充足率の推移

年度	入学者数 合計	普通科系 入学者数	専門学科 入学者数	総合学科 入学者数
H30	13,999 (95.4)	9,152 (94.2)	3,290 (98.2)	1,557 (97.3)
R元 (H31)	13,770 (94.6)	9,059 (93.2)	3,255 (98.3)	1,456 (95.8)
R2	13,286 (94.7)	8,696 (93.7)	3,161 (96.7)	1,429 (96.6)
R3	12,654 (94.5)	8,297 (93.4)	2,980 (97.1)	1,377 (95.6)
R4	12,852 (94.0)	8,496 (94.0)	2,945 (93.5)	1,411 (95.3)
R5	12,251 (94.0)	8,146 (94.3)	2,813 (92.8)	1,292 (95.0)

※中等教育学校後期課程を含む

※()内は充足率

※普通科系:普通科、その他の専門学科

※専門学科:農業、工業、商業、水産、家庭

充足率とは、定員に対する入学者数の比率のことで、例えば、定員 100 人に対し 95 人入学すれば充足率は 95.0%となります。令和 5 年度入学者数合計での充足率は 94.0%であり、前年度と同じとなりました。

4 公立と私立の募集定員比率の推移

平成 25 年度～令和 5 年度までの公立高校と私立高校の募集定員比率は、表 6 のとおりです。この 10 年間で中学校卒業者数が 4,000 人余り減少する中、学級減については、主に県立高校で行ってきました。全日制課程の定員のうち、公立高校の占める割合は、平成 24 年度の 80.0%から、令和 5 年度では 74.8%に低下しています。

今後は、県立高校と市立・私立高校における募集学級数のあり方なども課題と考えていきます。

表 6 公立と私立の募集定員比率の推移

年春		H25	H26	H27	H28
中学校卒業者数		22,347	22,252	21,693	21,230
募集定員 比率(%)	公立	79.5	78.9	78.7	78.3
	私立	20.5	21.1	21.3	21.7
年春		H29	H30	H31	R2
中学校卒業者数		21,119	19,807	19,716	19,148
募集定員 比率(%)	公立	78.2	76.8	76.6	76.0
	私立	21.8	23.2	23.4	24.0
年春		R3	R4	R5	R5-H25
中学校卒業者数		18,346	18,856	18,430	▲ 3,917
募集定員 比率(%)	公立	75.1	75.6	74.8	▲
	私立	24.9	24.4	25.2	

おわりに

社会の急激な変化とともに生徒数の減少が進む中であっても、生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす教育環境の整備や将来の新潟を担う人づくりが求められています。

毎年 7 月に公表している「県立高校等再編整備計画」は、中学 1 年生が高校入学時の学校・学科のおおよその姿が分かるように、向こう 3 か年分について示したものであります。将来の進路選択を見据えた学校選びの資料として活用していただきたいと思えます。

県立高校等の再編整備計画や募集学級計画の策定に関して、本県の教育の現状や教育課題を御理解いただき、今後も御協力をお願いいたします。

【お問い合わせ】

高等学校教育課 企画振興係

TEL:025-280-5614

令和6年度県立高等学校、県立中等教育学校の募集学級及び募集定員

注：学校欄の【 】は分校

■ 全日制課程

学校	学科	募集学級	募集定員	学校	学科	募集学級	募集定員
村上	普通	3	120	新津工業	工業マイスター	1	40
村上桜ヶ丘	総合	3	120		生産工学	1	40
中条	普通	2	80		ロボット工学	1	40
新発田	普通	6	240		日本建築	1	30
	理数	1	40	新津南	普通	3	120
新発田南	普通	3	120	白根	普通	2	80
	機械工学	1	40	五泉	総合	5	200
	建築工学	1	40	村松	普通	2	80
	土木工学	1	40	阿賀黎明	普通	1	40
	電子情報工学	1	40	三条	普通	6	240
新発田農業	生物資源	2	80	三条東	普通	5	200
	食品科学	1	40	新潟県央工業	機械加工	1	40
	環境科学	1	40		電子機械	1	40
新発田商業	商業	3	120		情報電子	1	40
阿賀野	普通	2	80		建設工学	1	40
豊栄	普通	2	80	三条商業	総合ビジネス	3	120
新潟	普通	7	280	吉田	普通	2	80
	理数	2	80	分水	普通	2	80
新潟中央	普通	5	200	加茂	普通	4	160
	普通(学究コース)	2	80	加茂農林	生産技術	1	40
	食物	1	40		環境緑地	1	40
	音楽	1	40		食品技術	1	40
新潟南	普通	8	320		生物工学	1	40
	普通(理数コース)	1	40	長岡	普通	6	240
新潟江南	普通	7	280	長岡大手	普通	6	240
新潟西	普通	7	280		家政	1	40
新潟東	普通	6	240	長岡向陵	普通	5	200
新潟北	普通	3	120	長岡農業	生産技術	2	80
新潟工業	IT工学	1	40		食品科学	1	40
	マカトロニクス工学	2	80		生活環境	1	40
	都市工学	1	40	長岡工業	機械工学	1	40
	建築工学	2	80		電気電子工学	2	80
	環境化学	1	40		物質工学	1	40
新潟商業	総合ビジネス	4	160		産業デザイン	1	40
	情報処理	2	80	長岡商業	総合ビジネス	4	160
	国際教養	2	80	正徳館	普通	1	40
新潟向陽	普通	5	200	栃尾	総合	2	80
巻	普通	7	280	見附	普通	2	80
巻総合	総合	5	200	柏崎	普通	5	200
新津	普通	6	240	柏崎常盤	普通	3	120

■ 定時制課程

学校	学科	募集学級	募集定員	学校	学科	募集学級	募集定員
荒川	普通(午前部)	1	35	柏崎総合	総合	3	120
西新発田	普通(午前部)	2	70	柏崎工業	機械創造	1	40
新潟翠江	普通(午前部)	1	35		電気技術	1	40
長岡明德	普通(午前部)	3	105		環境化学	1	40
	普通(夜間部)	1	35	小千谷	普通	5	200
出雲崎	普通(午前部)	1	35	小千谷西	総合	4	160
堀之内	普通(午前部)	2	70	小出	普通	4	160
十日町	普通	1	40	国際情報	国際文化	2	80
高田南城	普通(午前部)	2	70		情報科学	1	40
佐渡	普通(午前部)	1	35	六日町	普通	5	200
【相川】	普通(午前部)	1	35	八海	普通	2	80
定時制課程合計		15	530	塩沢商工	地域創造工学	2	80
					商業	1	40
				十日町	普通	5	200
				十日町総合	総合	3	120

■ 通信制課程

学校	学科	募集定員
新潟翠江	普通	若干人
高田南城	普通	若干人

■ 中等教育学校

学校	前期課程	募集学級	募集定員
村上		2	80
燕		2	80
柏崎翔洋		2	80
津南		2	80
直江津		2	80
佐渡		1	40
中等教育学校合計		11	440

学校	学科	募集学級	募集定員	学校	学科	募集学級	募集定員
柏崎総合	総合	3	120	高田代	普通	2	80
柏崎工業	機械創造	1	40	高田	普通	5	200
	電気技術	1	40		理数	1	40
	環境化学	1	40	高田北城	普通	5	200
小千谷	普通	5	200		生活文化	1	40
小千谷西	総合	4	160	高田農業	生物資源	2	80
小出	普通	4	160		食品科学	1	40
国際情報	国際文化	2	80		農業土木	1	40
	情報科学	1	40	上越総合技術	機械創造工学	2	80
六日町	普通	5	200		電気情報	1	40
八海	普通	2	80		建築環境	1	40
塩沢商工	地域創造工学	2	80		土木防災	1	40
	商業	1	40	高田商業	総合ビジネス	3	120
十日町	普通	5	200	有恒	普通	1	40
十日町総合	総合	3	120	新井	総合	4	160
松代	普通	2	80	糸魚川	普通	3	120
高田	普通	5	200	糸魚川白嶺	総合	3	120
	理数	1	40		水産資源	1	40
高田北城	普通	5	200		海洋開発	1	40
	生活文化	1	40	佐渡	普通	5	200
高田農業	生物資源	2	80	羽茂	普通	1	40
	食品科学	1	40	佐渡総合	総合	4	160
	農業土木	1	40				
上越総合技術	機械創造工学	2	80	全日制課程合計		303	12,110
	電気情報	1	40				
	建築環境	1	40				
	土木防災	1	40				
高田商業	総合ビジネス	3	120				
有恒	普通	1	40				
新井	総合	4	160				
糸魚川	普通	3	120				
糸魚川白嶺	総合	3	120				
海洋	水産資源	1	40				
	海洋開発	1	40				
佐渡	普通	5	200				
羽茂	普通	1	40				
佐渡総合	総合	4	160				

第 5 回科学の甲子園ジュニア新潟県大会の報告

(兼 第 11 回科学の甲子園ジュニア全国大会新潟県代表選考)

義務教育課

科学の甲子園ジュニアとは

科学の甲子園ジュニアは、理科、数学などにおける複数分野の競技に協働して取り組むことを通じて、中学生が科学の楽しさ、面白さを知り、科学好きの裾野を広げ、未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材を育成することを目的としています。

第 5 回県大会で実技競技を行いました

今年度は、昨年度に比べ、参加校数が 3 校増の「29 校、65 チーム（1 チーム 3 名）、195 名」が予選の筆記競技に挑戦しました。この中から 12 チームが、第 5 回新潟県大会に出場し、実技競技に挑戦しました。

日 時：9 月 23 日（土・祝）午後 0 時 30 分～4 時 30 分

場 所：新潟県立自然科学館

出場校：() は出場チーム数

- ・ 田上町立田上中学校 (1)
- ・ 見附市立見附中学校 (1)
- ・ 新潟明訓中学校 (2)
- ・ 三条市立大崎学園 (2)
- ・ 魚沼市立堀之内中学校 (1)
- ・ 新発田市立東中学校 (1)
- ・ 阿賀野市立水原中学校 (1)
- ・ 長岡市立南中学校 (2)
- ・ 新潟大学附属長岡中学校 (1)

今年度は、プロペラキットと発砲スチール製のカレー容器で「ホバークラフト」を製作し、幅 90cm のレーン上を走らせ、240cm 先にあるターゲットを狙い、ホバークラフトとターゲットとの距離を競う競技を行いました。

指示書の通りに製作しても、プロペラを回転させるために巻いたゴムの弾性力でホバークラフトは傾き、まっすぐに進みません。そのため、多くのチームは、カレー容器を切って加工したり、ダルマピンや画用紙などで重心を変えたりするなど、仲間と議論しながら試行を繰り返し、まっ

すぐ進めるための方法を構想しました。中には、曲がることを前提として、スタート地点に置く角度を調整したチームもありました。

5 回のチャレンジがすべてニアピンだったチームは、プロペラを上向きに設置し、ホバークラフトの前を浮かせ気味にしたことで、接地面との摩擦を軽減し、まっすぐに進ませることに成功していました。



【実技競技 ホバークラフト製作の様子】



【県大会参加チームの集合写真】

優 勝 見附市立見附中学校 B チーム

準優勝 三条市立大崎学園メガネ科学チーム

目指せ！ 全国大会上位入賞！

全国大会は 12 月 8 日（金）～10 日（日）の 3 日間、兵庫県姫路市で開催されます。新潟県大会優勝・準優勝の 2 チームの 6 名が、新潟県チームとして全国大会に出場します。

【お問い合わせ】

義務教育課 指導第 2 係

TEL：025-280-5605

「拓け未来の新潟 第 17 回教育フォーラム」の 開催について

県立教育センター

はじめに

「拓け未来の新潟 第 17 回教育フォーラム」を令和 6 年 1 月 26 日(金)に開催します。

当日は、昨年度同様、動画共有サービス「YouTube」等を用いて、参加者が勤務校から視聴する形態で行います。

学習指導要領の趣旨の実現を図る内容をテーマとした講演会と、本県教育の喫緊の課題について扱う 2 つの分科会を実施します。

教育フォーラムの開催について

1 概要

(1) 参加対象者

幼・小・中・高・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校の教職員及び教育委員会関係者

(2) 実施方法

YouTube 等によるオンライン開催

(3) 期日 令和 6 年 1 月 26 日(金)

(4) 日程

午後 1 時	～ 1 時 20 分	開会挨拶
午後 1 時 30 分	～ 2 時 50 分	講演
午後 3 時	～ 4 時	分科会

(5) 申込方法

11 月中旬に各学校・園等に開催案内をお送りしていますので、Google フォームによりお申込みください。前日までに動画の URL を送付します。

2 講演会

放送大学オンライン教育センター長である中川一史教授から、「ICT が拓く

子どもの学び」と題し、ご講演をいただきます。

各学校では、整備された 1 人 1 台端末をはじめとした ICT の活用について様々な模索しながら、教育活動を行っていると思います。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた ICT の効果的な活用方法や働き方改革を推進するための校務の DX など、今日的な教育課題についてお話しいただく予定です。多くの皆様の聴講をお待ちしています。

— 講師紹介 —

放送大学オンライン教育センター長

教授 なかがわ ひとし 中川 一史 様



放送大学 オンライン教育センター長・教授・博士（情報学）

AI 時代の教育学会（会長）、日本 STEM 教育学会（副会長）、日本教育メディア学会（理事）

中央教育審議会初等中等教育分科会「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会」（委員）

子ども家庭庁「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」（座長代理）

文部科学省「学校 DX 戦略アドバイザー」
「運営企画委員会」(委員)

教科書研究センター「デジタル教科書に
関する調査研究委員会」(委員長)

文部科学省委託「デジタル教科書の効果
・影響等に関する実証研究事業」有識者会
議(主査)

日本教育情報化振興会「ICT 夢コンテス
ト」(審査委員長)

D-project 一般社団法人デジタル表現研
究会(会長)

国語と英語学習者用デジタル教科書活
用研究プロジェクト(代表)

GIGA スクール時代の NHK for School 活
用研究プロジェクト(総括)

光村図書小学校国語教科書編集委員、日
本文教出版高等学校情報教科書編集委員
熊本市教育情報化検討委員会(委員長)
他、全国の自治体や学校の実践等の助言を
しています。

【2 キャリア教育(アントレプレナーシップ 教育)】

新潟県の「一人一人の個性や能力を伸ばす教
育の推進」の基本方針のもと、「アントレプレ
ナーシップ教育」を推進するために、当センタ
ーでは、「『夢☆チャレンジ』講師派遣」事業
や「アントレプレナーシップを育むキャリア教
育推進講座」を実施しています。

学校では、「アントレプレナーシップ教育」
がどのようなものであるのか、また、キャリア
教育の中の位置付けはどのようになっている
かなど、まだ理解が浸透していない現状があ
ると感じています。この分科会では、「アントレ
プレナーシップ教育」についてわかりやすく解
説するとともに、現在実践している学校の紹介
などを行っていく予定です。「アントレプレナ
ーシップ教育」をもっと知って、キャリア教育
に役立てたいと思っている先生方、ぜひ分科会
に参加し、アントレプレナーシップ教育を推進
していきましょう。

3 分科会

講演会に続き、本県の教育課題の解決に向け
た調査・研究に取り組む2つのチームが発表を
行います。

【1 道徳教育】

今年度は、「誰もが取り組みたくなる道
徳授業」をテーマとし、当センターが主催
する講座受講者の所属校の協力を得なが
ら、調査・研究に取り組んでいます。

協力校の教職員を対象に実施した「道徳
の授業についてのアンケート」の結果から、
「効果的な指導方法」や「指導の効果を把
握すること」を自身の課題であると考えて
いる先生方が多いことが明らかになりました。
このような実態を踏まえ、先生方の
課題を解決するために必要な工夫を受講
者と一緒に考えながら、授業を実践してい
きます。「こんな工夫をしたら、児童生徒
がこのように変容した」という手応えをも
とに、先生方の意識の変化を分析し、動画
で紹介します。ぜひ、ご期待ください。

おわりに

今年度も、オンラインによる開催となりま
す。1月26日(金)が開催日ですが、1週間
程度 YouTube で公開する予定です。当日ご覧
になれない方は、お手すきの時間にご覧くだ
さい。多くの皆様のご参加を心からお待ちし
ています。

<問い合わせ先>

県立教育センター 教育研究班

住所：新潟市西区曾和100番地1

TEL：025-263-9028

URL：<https://www.nipec.nein.ed.jp/>

インフォメーション

●県立万代島美術館(新潟市)

■イッタラ展

フィンランドガラスのきらめき



ティモ・サルパネヴァ《i-ライン》シリーズ、1956年
©Design Museum Finland, Photo: Rauno Träskelin

フィンランドを代表するライフスタイルブランド、イッタラの創立 140 周年を記念する展覧会。イッタラの歩みを象徴する 20 世紀半ばのクラシックデザインやモダンデザインのガラスを中心に、陶器や磁器、映像やインスタレーションを交えた約 450 点を通してその技術と哲学、デザインの美学に迫ります。

また、新潟会場では当館の所蔵品から、日本を代表するグラフィックデザイナー・亀倉雄策(1915-1997)がコレクションしたイッタラ社関連の作品を特別展示いたします。

- 会 期 開催中～12月10日(日)
- 開館時間 午前10時～午後6時
(観覧券の販売は午後5時30分まで)
- 観 覧 料 一般1,500円(1,300円)
高校・大学生1,200円(1,000円)
中学生以下無料

※()内は有料 20 名以上の団体料金。
※障害者手帳をお持ちの方は観覧料免除。

【会期中のイベント等】

○ファミリーデー
会期中の日曜日 午前10時～午後1時
会場に BGM が流れるので、ご家族で会話を楽しみながらご鑑賞いただけます。

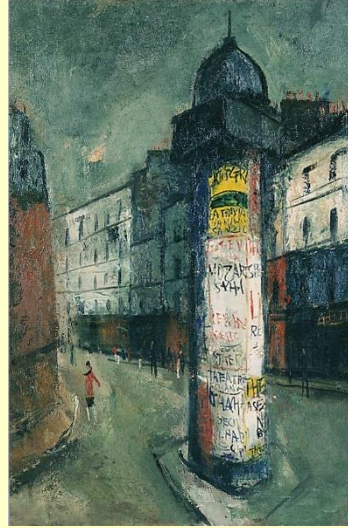
県立万代島美術館
住所 新潟市中央区万代島 5-1 朱鷺メッセ内
万代島ビル 5 階

TEL: 025-290-6655
URL: <https://banbi.pref.niigata.lg.jp/>

●県立近代美術館 (長岡市)

■開館 30 周年記念 コレクション展 第 3 期

- 会 期 開催中～12月17日(日)
- [展示室 1] 近代美術館の名品—新収蔵品を中心に
- [展示室 2] 異国に渡った芸術家たち
- [展示室 3] 三芳悌吉 絵本の仕事 —科学の眼差し



佐伯祐三《広告塔》1927年

(「異国に渡った芸術家たち」より)

■開館 30 周年記念 コレクション展 第 4 期

- 会 期 12月26日(火)～3月31日(日)
- [展示室 1・2] 近代美術館の日本画の名品
- [展示室 3] 反戦への思い



ケーテ・コルヴィッツ《母と二人の子》

1932-1936年(「反戦への思い」より)

- 開館時間 午前9時～午後5時
(観覧券の販売は午後4時30分まで)
- 観 覧 料 一般430円(340円)
高校・大学生200円(160円)
中学生以下無料

※()内は有料 20 名以上の団体料金です。

県立近代美術館
住所 長岡市千秋 3 丁目 278-14
TEL: 0258-28-4111
URL: <https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

● 県立歴史博物館（長岡市）

秋季テーマ展示

守れ！文化財

「障害」をめぐるモノとヒトに光を灯す

全国の「障害」に関わる歴史資料について、「モノ」と「ヒト」に焦点をあてて展示します。展示では「障害者」の歴史ではなく、「障害」とどのように向き合ってきたのかというテーマで歴史をひも解きます。

さまざまな場所で遺されてきた「障害」にまつわる資料たちは、これまで博物館のなかでは扱われることが少なかったけれども、重要な証言者であることがわかるでしょう。そして「障害」をめぐる資料群を「守る」ために、その「障害」の当事者や当事者団体のみならず、より多くの方に守ることの意義について考えていただきたいと思います。



- 会 期 開催中～12月17日(日曜日)
- 時 間 午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- 場 所 県立歴史博物館企画展示室
- 休館日 月曜日
- 観覧料 無料

県立歴史博物館
住所 長岡市関原町1丁目2247-2
TEL:0258-47-6130
URL:<http://nbz.or.jp/>

発行所 新潟県教育庁総務課
所在地 〒950-8570
新潟市中央区新光町4番地1
電 話 025-280-5587
F A X 025-285-3766
E-mail ngt500010@pref.niigata.lg.jp
Web版 URL :
<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/>
本紙に関する御意見がありましたら、お寄せください
<無断転載を禁ず>

※PDFファイルで御覧の方は、下線部(Web ページアドレス)をクリックすると、直接該当 Web ページにジャンプしますので御活用ください。

※県ホームページからバックナンバーも御覧いただけます。「新潟県 教育月報」で検索してください。